



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2024年12月1日

12月 274号

奈良・人と自然の会



<ベースキャンプのベンチを作っています>



Contents

ホームページではカラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



| | | | |
|-------------------|---|-----------------------|----|
| ならやまプロジェクト | 1 | 海外ボランティア (パラグアイ) 3 | 8 |
| Monthly Repo ならやま | 2 | きょうみ森森 | 9 |
| 里山の今 (パトロール、果樹) | 3 | やさしい病害虫講座(何を散布しようか)-1 | 10 |
| 佐保川小学校・自然教室レポ | 4 | ギャラリー | 11 |
| 芋ほりイベントレポ | 5 | 行事案内 | 12 |
| こんなこともありました | 6 | 幹事会報告、行事予告 | 13 |
| ならやま自然観察会レポ | 7 | | |

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

急な冷え込みで木々が深く色づき、短い秋が過ぎて、毎回焚火がたかれる季節になった。更新された焚火用ドラム缶は芋ほりイベントでも焼き芋を美味しく提供してくれた。寒い間、仲間に囲まれてにぎわうことだろう。間伐された木から加工制作されたベンチは各グループに憩いの場を提供してきたが、ベースキャンプのベンチも更新されて見違えるようになった。さまざまところで仲間の知恵が活かされていることを改めて感じる。



開花期は 8~10 月とされるホトトギスがまだきれいに花を咲かせていた。「永遠の若さ」という花言葉も持っているとか。私たちにはピッタリ??

まだまだ...と咲き誇るホトトギス
(ビオトープ西池東側)

今年の最終活動日は 26 日 (木) です (12 月は土曜活動日はありません)

12 月の活動特記事項 活動日：5 (木) ,12 (木) ,19 (木) ,26 (木)

12 月 5 日 (土)：芋煮会、協働活動 (アダプトプログラム)

12 月 26 日 (木)：迎春準備

12 月の各グループ活動予定

| グループ | 活動予定 |
|--------|---|
| 里山 | 楢木用コナラの伐倒、薪材玉切り、薪割り 迎春準備 (門松、ミニ門松)、アカマツ林松枯れ対応 |
| エコファーム | 芋煮会、玉ねぎの苗植え付け、各種野菜の施肥・手入れ・収穫 里芋畑跡地の整備、畑へのチップ入れ 鹿害予防ネットの整備 |
| 景観 | 整備：竹林の整備 ビオ：池・水路の景観保全・整備 花：道路沿い花壇・山野草園の草引き |
| パトロール | 1~3 コースパトロール、観察路整備・笹草刈り 緑陰広場への橋の改修 |
| 果樹 | 柚子の収穫、果樹の剪定、寒肥施肥 果樹についての講習会 (12月5日) |

活動日： 第 4 土曜日およびその他の週の木曜日 9:00~15:00

前日の 17 時発表の気象庁予報 (NHKTV (奈良) 19 時前放送) の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率 60% 以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

10月26日(土)曇り 37名

里山Gは遊びの森の雑木の除伐、松林の枯木の焼却、薪割り。エコGは脱穀と粃摺り(収穫は約45kg)、さつま芋の収穫(イベント用)。景観Gは彩りの森の草刈り、蜜蜂管理、脱穀の手伝い。花班は自転車道沿いの花壇の移植と草引き。ビオ班は脱穀の手伝い、緑陰広場の水路の草刈り。パトロールGは自然観察路の倒木処理、数珠玉の根の撤去、2コースのパトロール、エントランスの花壇撤去。果樹Gはコンニャク芋と西条柿の収穫、実りの森除草等。

10月31日(木)晴 68名

黒米の販売。12月の月例研修会の案内。

里山Gは里山林の整備、機関車広場の斜面の雑木間伐、No.18地区の下草刈り、薪割り。エコGは稲架の撤去、白菜の植付け、芋掘りイベントの準備。景観Gは第3駐車場、梅畑の草刈り。花班は駐車場横の花壇の草引き。ビオ班は西池北側の湿地の刈草の除去、整理。パトロールGは3コースのパトロール、自然教室の工作準備、14日の観察会と佐保川小学校の下見。果樹Gはコンポスト棚から腐葉土を搬出しカブト虫の幼虫を約200匹確保。実りの森の除草。

11月7日(木)晴 67名

アダプトプログラムの一環として協働で周辺清掃を実施。自転車道沿いに沢山の衣類などが捨てられていた。せっかくの美観を損ねる心無い所業に哀しみを覚える。空きドラム缶が縦割りに切断され焚火用のドラム缶が更新された。



里山Gは里山林内整備、BC内のベンチ(6基)の更新、自然の森の倒木処理と薪割り。エコGは白菜、レタスの苗移植、大根の間引き、芋掘りイベントの準備。景観Gは佐保自然の森、JR線路横や周辺と東池の草刈り、BC西側の竹林整備。花班は第2駐車場横花壇の草引き。パトロールGは3コースパトロール、14日の自然観察会打合せ、緑陰広場の橋の改修用の材料作り。果樹Gは刈草をコンポスト棚に投入、実りの森の除草。

11月9日(土)晴 15名+61名

午前中、芋ほりイベントを佐保台小児童と保護者および関係スタッフ計61名を迎えて会員スタッフ15名にて実施。

本来は11月2日の予定が雨天順延となった。

11月14日(木)晴 68名

午後、自然教室の一環としてパトロールGが主体となってならやまでの自然観察会を実施。会員有志が参加。

里山Gは里山林内整備、伐採材(雑木)玉切り、BC内のベンチの更新、No.18地区の下草刈り、薪割り、東池の草刈りの手伝い。エコGはそら豆などの種まき、さつま芋、なす、唐辛子、里芋などの収穫、畑の草取りなど。景観Gは東池の草刈りとBC西側の竹林整備など。花班は山野草園の草取り。ビオ班はビオエリアの樹木の剪定と枝の撤去、湿地の草の刈取りと撤去など。パトロールGは観察路2コースのパトロール、エントランス花壇の土入れ、緑陰広場の橋の補修材準備、数珠玉生育地の整備、午後から秋の自然観察会を実施。果樹Gはコンポストの補修、牛糞をコンポストに搬入、栗と柑橘類に施肥、実りの森の除草など。

11月19日(火)晴 近畿大学(北川教授、学生6名)、会員4名

タナゴ池、ドジョウ池の生物調査、環境整備。

パトロールグループ



パトロール班での4年間

飯島 八重子

私がパトロール班に所属し、活動参加して4年が経過しました。思えばコロナ禍真っ最中皆さんマスク顔で帽子も着用され、お顔も名前も分からずでした。皆さんのマスク無しのお顔を見たのは「新春交流会」での会食の時です。ある会員さんからは「あんた誰や、あんたみたいな人おったか？ 見たことない顔やなー」と怪しまれ(私も見た事、ごさいません)状態でしたが、最近はおちこちからお声掛けしていただくようになり有り難い事です。

さて4年経過したパトロール班ですが、私の当時の失敗談ですが、思い出すと赤面する事が、多々有ります。

- ① パトロール班なのに方向音痴の私は観察路が覚えられない…何時も先輩にくっついて行くものの、曲がり角で姿が見えなくなった時は保護されたい～心境になって泣きたい気持ちに…。
- ② 先月号にも記載されていましたが、自転車置き場のヌスビトハギですが、ズボンに引っ付くので、当時何も知らない私が鎌で刈っていると「何してんの?」「引っ付くので刈ってます!」と平然と答える私(今思い出しても恥ずかしい!) 稀少種の何たるやも知らずに刈り取ってしまい、本当に御免なさいでした。

その後パトロールの方で数人の方からシニア自然大学の入学を勧められ、そこで学んだ事と実際に「ならやま」で活動する事で、里山の見方も変わりました。そして何よりも人生の楽しみが増えました。

今年は体調も悪くかなり落ち込みましたが、これからは焦らず、ボチボチと歩みたいと思っております。

果樹グループ

中国湖南省を旅しながら
農業とジャムづくりを考える

八木 健彦

11月上旬に5泊6日の日程で中国湖南省を訪問した。湖南省は長江の中流域・洞庭湖の南のエリアである。かつての楚の国、三国志の呉の国と言えれば見当がつくかも。長沙の大都会ぶりと夜の賑わい、桂林を上回るような張家界の光景等、圧倒されることも多かったが、少なからやまと関連する事柄に触れてみたい。

長沙のきのこ専門店、きのこの刺身を食べた。上辺が黄色でかまぼこを四角く切りそろえたように並べてあったが(金耳菌)、いっぱい食べたあと、舌先にかすかな痺れのような感触が残った。きのこ鍋は10分以上煮込まないと毒がぬけないとのことで、時間を計りながらの食事であった。

ホテルで気づいたのはジャムを見かけなかったことだ。中国ではジャムを食べないということであった。朝は粥か麺が多い。長沙郊外の丘陵地では、みかん、オレンジ、キウイ等、果樹栽培が盛んに行われている。青果としての出荷以外はジュースにするかドライフルーツにしての出荷だそうで、ジャムなどには加工していないという。もう一つは茶畑が広がっているのが目についた。

湖南省でも若者の農業離れは著しく、長沙などの大都会に集まって来るそうだ。それでも湖南大学と提携し、会社を立ち上げながら新しい農業への試行は始まっているという。若者を引き寄せる農業。それはスマート化と6次産業化だと思われる。中国では農機のハイテク化やデジタル経済による販路の全国開拓はお手のものである。とすれば2次にあたる食品加工業が重要となり、ジャムづくりはその要に位置するよう思えるのだが。さてどうなることやら・・・

佐保川小学校学習支援・レポ

校庭の樹木の自然工作

小島 武雄

秋の佐保川小学校学習支援を報告します。

11月1日(金)5~6時間目。

4年生2クラス、30名と32名の参加です。

春に続いての4年生、校庭での自然観察。今回はいつもの月曜に替えて金曜日の午後になり、自然教室のメンバーが集まりにくく、千載さんと、有元さんに協力いただき、6名で行いました。

前日の下見で、秋の樹木の状況確認を行いました。当日予報では午後から雨模様と思われ、教室での自然工作に備えて準備も行いました。

当日は、午後から雨が降り出し、13時35分からの授業は工作に。「樹木の葉っぱについての話」と「葉っぱの葉脈写し絵」に変更になりました。5分前にはクラスの児童が迎えにきてくれました。

準備した木の葉のいっぱい入った箱を見て、「何、これー!」と嬉々として運んでくれます。

授業開始です。最初に「樹木観察は春にやりましたね、覚えていますか!」の問いに、「覚えてるよ」の元気な声。

まず、広葉樹と針葉樹の違いを話し、持参した葉っぱがついた枝を手に持ち揺らしながら、「ここにある葉っぱの役割はなんですか?」の問いかけに、次々と手が上がります。

「日よけになる」「栄養をたくわえるもの」「風をかやすため」などたくさんの答えが聞けました。「光合成!」これは先生にたずねると、「6年生から教える」との返事でした。葉っぱには、見えないけれども、人間のような口があり、食べることや息もしています。太陽から光をもらい、栄養を作り、木や根にあげる役割です。

次に黑板に、広葉樹の葉のイラストを貼り付けます。単葉、切れ込みなど葉の形の違いを見せて、葉の鋸歯のギザギザ、縁無し、トゲトゲを示すとしっかり見てくれました。

続いて、今日の「葉脈写し絵」に関わる網目の葉脈(サクラ)、直線葉脈(イチヨウ)を見せ、「これは、人間の血管のように栄養分を送っている線ですよ」と伝えます。



葉っぱの話は続きます。さらに、「葉っぱを触ってみよう」と用意してきた色んな葉っぱをみんなに配ります。

やわらかい、かたい、つるつる、ざらざら、つやつやなど興味深く順にさわっていきます。

特に、ロウバイの葉のざらざらには、わーっと驚いた様子でした。そして、クスノキの匂いには反応がありました。「この匂いには、覚えがあるでしょう。タンズに入っている防虫剤ですよ」と言っても、伝わりません。今は、もう時代が違うのかもしれない。



自然工作は、葉脈写し絵をおこないました。

白い紙と、葉っぱ類(アジサイ、イチヨウ、サクラ、エノキ、カエデなど)を配りました。みんな懸命に鉛筆で擦ります。力が入りすぎたり、薄かったりなかなか上手いきません。手が疲れたような子も、何とか授業時間ギリギリに間に合いました。

いろんな色の台紙に貼り付けて名前を書いて完成。満足してくれたのか、ハイタッチしてくれる子もいました。教室の壁に張り出して、終了です。

最後に、「次回は1月、冬の自然観察会です。また面白いよ!楽しみにね」と予告して別れました。

芋掘りイベント・レポ

福田 美伸

当初11月2日に予定されていた芋掘りイベントは雨のため、一週間遅れの9日(土)の開催となり、児童20名、保護者と先方スタッフ31名、未修学児童10名、当会スタッフ15名、合計76名が参加しました。



「集合写真」

10時20分、千載会長の挨拶、担当幹事の注意事項に続き、佐保台小学校放課後教室代表のご挨拶のあと、赤、黄、緑、青の4班に分かれ、大喜びで芋掘りを開始し、一生懸命に掘りました。



「さあ、みんなで芋掘り開始」

11時、芋掘り終了後、芋コンテスト(自慢の重量とネーミング)が行われました。今年はなぜか大きいさつま芋が多くとれたので、賑やかなコンテストになりました。



「面白い形になんて名前つけたのかな」

コンテストの優勝者は参加者の拍手の多さにより決定され、*重量の部の優勝は緑組(1.48kg)、*面白い形とネーミングの部の優勝は赤組でネーミングは「クリオネ」でした。それぞれの賞にはドングリで作ったメダルを授与して芋コンテストは終了しました。



「きれいなメダル、さあどうぞ!」

最後に全員に焼き芋が配られました。今年は朝から準備した焼き芋がうまく焼けていて、全員がおいしいと言って食べてくれました。ほんとうにおいしく焼けていました。終わりの挨拶で小島副会長がお芋の食べ方等の話やイベント(来年2月の椎茸菌打ち、植樹)について紹介があり、その後、お土産のお芋を手渡して、無事11時40分イベントは終了しました。来年のイベントにもたくさん参加してくれそうです。

**佐保川地域ふれあい会館創立 20 周年記念
「ふれあい祭り」へのパネル展示参加**

千載 輝重

11月10日(日)、佐保川地域ふれあい会館で創立20周年を記念して「ふれあい祭り」が開催され、当会は活動を紹介するパネル展示による参加をさせていただきました。

「ふれあい祭り」は10:00~15:00で、南京玉すだれやフラダンス、歌声広場などの演芸、一刀彫や絵手紙などの展示に加えて、炊き込みご飯やおにぎりの販売、輪投げなどの模擬店と様々な催しが企画・実施されました。

当会は佐保川地区とは地域連携で協力関係にあり、活動を紹介する形での参加をさせていただきました。パネル展示だけによる紹介ですが、興味を持っていただいた方がいれば、そして入会していただければと願いつつ展示しました。朝、8:30~9:30にて展示し、15:00に回収しました。おいてあったチラシはかなり減っていました(^_-)-☆



ふれあい会館前に掲示

(逆光でうまく撮影できませんでした(^;))

佐保台小学校

**自分たちで植えて収穫した黒米の給食
美味しいよ!!**

千載 輝重

11月18日(月)、佐保台小学校の給食でならやまの黒米(さよむらさき)が提供されました。同小学校児童5年生が6月に田植えし、10月に稲刈り収穫した黒米は5年前から給食として全校児童に食べていただいています。この日、私と富井さん、三瀬さんが試食に招待され、大

きな給食窯で炊かれた黒米入りの給食をいただきました。その後、全教室を見学5年生からは思い出して「田植えが楽しかった」、4年生からは「来年、楽しみ!」との声。1年生から6年生までの



児童のおいしそうに笑顔でお代わりする様子を見てとても嬉しくなりました。



近畿大学との協働活動

水生生物保護のための池ざらえ

田中 善英

11月19日(火曜日)、近畿大学農学部環境管理学科水圏生態学研究室の北川先生と6名の学生の協力を得て



バイオエリアの環境調査、環境改善を行いました。



気温が下がり、水温が12℃になった池の中に入り、水を水中ポンプで汲み出しました。そして泥の中を含めて、棲んでいる生物を採取して調査した結果、生物の状態に問題は無く、良好とのことでした。



更に環境を改善し、繁殖できる環境にするため、ドジョウ池に真砂土を入れて、池の中に浅い所と深い所、泥と砂地の場所を作りました。

池の中に多様な環境を作り、いろんな生物が繁殖できる環境を造る事を目指しています。

秋のならやま観察会



守口 京子

11月14日、秋晴れの下で「秋のならやま観察会」が行われました。今回は自然林尾根道を上るコースを取り入れ、普段あまり歩く機会がない上り坂を歩こうと考えました。稜線まで上ったら、赤岳より鳥観の丘へ、そして里山林を下るコースで、ほどよい距離のコースです。参加者の皆さんにまずは元気に歩き通し、さらには秋のならやまの良さを満喫してもらおうと計画しました。

参加者12名とスタッフ(パトロールG)10名計22名が4班編成で、観察路を歩きました。ハゼ、コシアブラなどの紅葉(黄葉)、ドングリやカラスウリ、センリョウなどの木の実を観察し、シャシャンボの実を食べ、ならやまの秋を楽しみました。とりわけたくさんのかわいいキノコに、一つ一つ名札が付けられ、参加者から「こんなに種類がある、ちゃんと名前がある」ことに驚きの声があがりました。



約1時間で、全員元気に歩き通し、班ごとにふりかえりの話し合いをして、散会しました。皆さんお疲れ様でした。

ならやまの秋はならやまの秋

参加者の言葉に「南方系の山」「紅葉が少ない」とありました。ならやまの特徴をうまく感じ取ってくださったと思います。ならやまは奈良県北部の標高100mほどの山で暖温帯という気候です。自然林であれば主に常緑樹が茂る所です。ならやま自然の森もその通りで、ソヨゴ、ヒサカキなどの常緑樹が大部分を占め、これらの植物は年中緑で紅葉しません。常緑樹



に交じってハゼ、タカノツメ、コシアブラなどの落葉樹が生えています。赤く色づいた鳥の羽のような細かい複葉だったのがハゼ、黄色で三出複葉がタカノツメ、よく似て5枚の複葉がコシアブラ。これは黄色が徐々に薄くなり白っぽくなっていき、もうすぐ半透明になります。

ならやま里山林の方は常緑樹を伐採し、コナラやクヌギを植樹するという整備をしてきたので、もうすぐオレンジ色の紅葉が見られると思います。

ならやま観察路はどう使えばいいでしょうか?

「一人でも歩けるように標識をわかりやすく付けてほしい」というご意見をいただきました。これまで観察路の作り方、使い方については、いろいろな議論がなされてきました。

- ・丸太階段を手作りで大丈夫か? 専門の業者に頼んだ方がよいかも。もし怪我したら責任が?
- ・看板を見て通りかかった人がふらりと迷い込んで、何かあったらどうする?

などなど悩み事、心配事は尽きませんでした。

現在の申し合わせ事項は次の通りです。

- ・山に入るのは原則2人以上で
 - ・ヘルメット着用
 - ・サイクリングロード浴いなど
- 部外者から目立つ所には看板を付けない
- ・もし山へ入る場合があれば、自己責任で。生物保護などのルールを守ってもらえるように、注意を促す看板を設置する。



ならやまは古都保存法という法律のもと、歴史的風土平城宮跡特別保存地区として指定され、都市開発の波から守られてきた貴重な場所です。観察路の問題はずっと課題です。これから話し合いを進めて、今後の方向を決めたいと考えています。



海外ボランティア活動体験記-13 パラグアイ(1997-2002)

木村 裕

コンテナに潜んで日本に上陸したヒアリがマスコミで話題になっていましたが、ここパラグアイでは獰猛なアリがいっぱいいます。

アリの中でもハキリアリはテレビのドキュメンタリーでもしばしば紹介され有名です。皆さんもご存じでしょう。大きな頭デッカチの赤アリが、切り取った葉を頭の上に掲げ、餌場から巣まで長い行列を作ります。たくさんのアリが行き来するので、地面は見事に剥げてアリ道ができあがります。暑い日中はお昼寝で、仕事はもっぱら夜間のようなのです。朝になると誰かが「今日の仕事はやめ!」と命令するようで、その通路を昼間みると、夜間に運んでいた葉や種が道の上に一列に並んで残っています。しかし涼しい日には昼間でも運搬を続けています。巣に持ち帰った葉でキノコを培養するようですが、狙われた木や草花や野菜は丸坊主にされ災難です。

葉を集めるアリには、ハキリアリばかりでなく大きな黒色の獰猛なアリもいます。バラやガーベラの葉が大好きですが、野菜の柔らかい葉も好物で、同僚が大切に育てているトマト苗の葉を丸坊主にしたり、イチゴの苗を地面近くで切り取ったりするので、同僚が少しは遠慮するように説得したところ、「ウルサイ!」とばかり指先をガブリとかまれていました。

我が家は3階にあるにも関わらず壁の隙間から小さな黒いアリがゾロゾロと現れ、「我々はこここの地主だ」と言って砂糖やパンをねらうわけではないですが、我が物顔で室内をあちらこちらと闊歩しています。寝転んでいると通行の邪魔だとばかりガブリとかみつきます。痛みは瞬間的なものですが、頻繁に食われるので、太ももは傷だらけです。かまれた跡を無意識にひっかいたのが原因かと思われま

す。この黒アリの中には獰猛で危険な奴が混じっています。ソファで寝転んでいたころ、チクリと腕に痛みが走り、よく見ると長さ3ミリ前後の黒いアリがするどい牙でかみついています。その災難を笑っていたワイフも腕をかまれました。そこで共同作戦でウロウロするアリをかたっぱしからひねりつぶし、踏みつけ、侵入してくる壁の穴には薬剤をおいてせん滅を開始して3日後には我が方が勝利をえて鎮静化。しかし敵もさるもの、数日後に絨毯の上に突然40~50匹の特攻隊が湧き出すように出現。侵入経路がわからずオロオロ。

とにかく、このアリにかまれると、その部分は1円硬貨位の大きさに赤く膨れ上がり、さらにその中央のかみ口がさらに小さな斑点となって膨れ上がります。翌日には腫れは腕の半分くらいにまで広がり、かゆくて辛抱たまりません。4日目くらいになると、腫れもひき、かゆみも収まりましたが、その傷跡は長く残りました。ワイフはかゆくてかきむしるのを防止するために、シップ布をベタッと貼っていました。

我が家の入口付近でたむろしている赤アリも獰猛です。肉食性で毎夜明かりに集まる虫を集団で攻撃しています。あるとき、変わった虫がいたので横取りしたところ、怒ったアリに指をかまれました。チクリとした痛みでしばらくズキズキし、翌朝にはその部分は水ぶくれになっていました。3~4日ほど腫れが続き、非常にかゆくて困りました。その傷痕が完全に治るのに一か月くらいかかりました。現地の人のお話によると、やはりかまれるとひどいとのことでした。

畑や道端には中型の獰猛なアリがいます。うっかりその巣の入口を踏みつけると、数十匹のアリが一斉にとびだして足に駆け上がってきてところかまわずかみつきます。毒はないのですが、痛みはかなりひどいです。私も2匹ばかりズボンの中に侵入され太ももをかまれました。油断していた同僚は、数十匹のアリに攻撃され痛い痛いで大騒ぎでした。

きょうみ 森森 ①

このコーナーは、会員の紹介をいたします。
 仲間の新たな魅力をお伝えするものです。

今回は、山内 京子 さん (2014年入会)

愛読書は相田みつを作
 「いちずに一本道いちず
 に一つ事」という自分を
 励ますための本です。

苦手なものはヘビです。

故郷は鹿児島県。
 日本一のクスノキが
 有名。サツマイモが
 とてもおいしい。

フォークソングが好き♪

初恋は中学時代の理
 科の先生で、勉強をと
 てもがんばりました。

尊敬している人はエ
 ジソン。電気の発明の
 のおかげで今日があると
 思っています。

今後の目標は「詩吟」
 の大会で優勝すること
 です。

「人と自然の会」の魅
 力は人が温かく、心がお
 ちつけるところです。

座右の銘は「継続は力
 なり」です。

好きなスポーツは
 バレーボール。「アタ
 ックナンバーワン」
 にあこがれたけど身
 長が足りず、レシー
 バーばかりでした。

今、熱中しているこ
 とは「自然物工作」で
 す。作ったものを楽
 しんでもらいたいで
 す。

思い出に残る映画は
 「黒部の太陽」で、ト
 ンネル工事の大変さが
 よくわかりました。

タイムマシンに乗れ
 るとしたら、天気を自
 在に操作できるところ
 に行ってみたいです。

幸せだと思う瞬間は
 「今生きていること」
 で、「今できることを精
 いっぱいやること」を大
 切にしています。

人生最後の食事
 で食べたいものは
 お寿司。毎日食べて
 もあきないです。



山内京子さんの好きなお花
 はヒマワリです。元気で明るい
 イメージそのもの。花言葉は
 「未来を見つめて」。

インタビューに快く応じて
 たくさんのお答えをいただき
 ありがとうございました。

感謝していることは
 「平和な社会」です。



学校に行くことが最
 優先で小・中・高の12年
 間休まずに通いました。
 気力、体力があったな
 あ。ねぎらいたいです。

やさしい病害虫講座

防除薬剤は何がよいのだろう？—I

木村 裕

家庭菜園や家庭園芸で野菜や花を栽培すると必ず病気や害虫が発生します。有機栽培を目指しておられる方は手で虫を捕まえたり、斑紋や斑点の表れている葉をちぎったりして奮戦されるか、あるいはあるがままに放置されるかのどちらかのようなのです。

私は農薬を頭から嫌わずにうまく利用すべきだと思います。最近の農薬はパツと効いてさっと消滅する傾向にあるので、うまく使えば病害虫は簡単に抑えられ、かつ安全な収穫物がたくさん得られます。

では、どんな農薬を準備すればよいのだろうか？

すべての病害虫に対して効果のある薬剤が望ましいですね。しかし残念ながら万能薬はありません。私たち医薬分野でも症状に合わせていろいろ使い分けているように、園芸農薬分野でも同じように使い分けが必要です。

使い分けて面倒ですね。よくわからないときには、霧吹き容器に入れて即散布できるスプレー剤がお勧めです。最近の薬剤は非常に効果が高いです。害虫用と病害虫用があり、銘柄もいろいろですが、効果の差はほとんどありません。植木鉢やプランター栽培ではこれで十分です。畑でもピンポイント散布をするのならOKです。欠点は水に溶かす薬剤に比べ割高で、ハダニに対して効果のある薬剤がないことです。



そのため私は水に溶かす薬剤を5種類使い分けています。100cc (g) 包装でだいたい1000~1500円程度で買えます。1回買っておくと4~5年は使えます。対象となる病害虫に合わせて薬剤を選んで水に溶かし、ハンドスプレーで散布しています。農家の使うような噴霧器も持っていますが、ほとんどハンドスプレーで間に合っています。なぜなら発生している病害虫に合わせてピンポイントに散布するので。畑全体や庭全体など広い面積に散布する必要はありません。



ハンドスプレー (カインズ製)

汁を吸う虫 (アブラムシ、コナジラミ、グンバイムシ) に対してはアルバリン水和剤。殺虫成分が植物体内を移行するので液のかかりにくい葉の裏にいる虫に対しても高い効果があります。



↑アブラムシ類 ↓コナジラミ類





Gallery ならやま



園芸 菊 川勝 孝雄



水彩画 王龍寺の階段 高間 祥子



写真 秋真っ盛り 二条城前にて
國方まり子



陶芸 友達猫 小島 武雄

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内



新春初出式のご案内

餅つきと七草粥

10年継続会員記念植樹式

有元 康人

日時：1月9日(木)9時～

場所：ならやまベースキャンプ

今ではあまり行われなくなった餅つき、初出式の後に、多くの方々が力いっぱい杵を打ち、餅をこね、黄粉とおろし大根で食し新年を祝います。



今年の活動の安全も含め新年を祝いましょう。ならやまで採れた春の七草で七草粥を作り新しい年の健康を祈念しおいしくいただきたいと思っています。

午後は、10年継続会員記念植樹を行います。

今年度の10年継続会員は6名で、まだ一般になじみのない果物の苗木、フェイジョアを植える予定です。

フェイジョアの特徴は、ピンクのトロピカルな、目を引く美しい花が咲きます。

果実は栄養価が高く、美容と健康に良いそうです。

実が採れるのは3～5年後ですが、人生100年、まだまだ健康で活動し、この栄養満点の果物を食べましょう。

巨大なきのこ
オオシロカラカサタケ(大白唐笠茸)
きのこだより

高間 祥子

今回は食べられないきのこです。10月の一泊研修会で訪れた岩村城跡で、ご覧になった方もおられたと思います。

夏から秋にかけて、公園の芝生や庭、校庭など、よく目に触れる所の草地に発生する大型のきのこです。カサの中央が高くなって開く様子が、唐傘のように見えることから名付けられています。



カサの直径は7～30cm、白い饅頭型で、表面には茶色の薄皮が付きますが、表皮が裂けて茶色のウロコ状になり、これがとれてしまって真っ白に見えることもしばしばあります。

ヒダは成熟すると鈍い緑色になります。近縁種のマントカラカサタケは、カサの直径40cm高さ50cmのものが京都で発生したそうです。

食用キノコのカラカサタケに似ていますが、誤って食べた場合、悪寒、頭痛、嘔吐や下痢、時に血便などのはげしい胃腸系の症状を呈します。

今年6月20日、50代の男性が大泉緑地に生えていたきのこを採取して自宅に持ち帰り、フライパンで炒めて調理、食べた約2時間後に嘔吐するなどし、救急搬送されたというニュースがありました。男性は回復して、搬送翌日の午後、退院したということで、死に至ることはなかったようですが、見つけても、絶対に食べないようにしてくださいね。

2024年11月度幹事会報告

開催日：10月26日

I.はじめに

- ・ならやま自転車道周辺に大量の古着が廃棄されており回収
- ・佐保川地域ふれあい会館の「ふれあい祭り」にパネル展示参加

II.会計・総務より

- ・会員動向：会員数127名(家族12名)
- ・会計：収支報告

III.活動・行事に関する議題・懸案・確認

1.3ヶ月活動スケジュール検討・確認

- ・12月の最終活動日は12月26日
- ・豚汁の提供は12月12日より開始

2.ならやまプロジェクト関係

- ・赤松林の松がマツノザイセンチュウの被害を受け、10本程度枯れたので処理する
- ・第一駐車場南の橋の付け替え工事
- ・実りの森の腐葉土の中からカブト虫の幼虫を捕獲
- ・11/19近畿大学がタナゴ池浚えを実施
- ・今後、東池の周辺の整備は景観Gが行う
- ・奈良県と使用協定地域について調整予定

3.イベント関係

- ・11/2芋掘りイベント
雨で11/9になった場合、参加人数が減る
- ・11/28新そば祭

IV.助成金関係

- ・来年度助成について申請検討中

V.特定議題

- ・新春交流会の実施内容は担当幹事が検討中

VI.広報関係

- ・12月号の編成、執筆者の確認

VII.報告・連絡事項、その他

1.月例研修会

- ・12/3忍坂街道・多武峰街道はデラックスバスを使用。参加者募集

次回幹事会は11/26(火)中部公民館14:00~



本誌の第271号の本欄に武満徹作の「小さな空」についての記述があり、「ならやまの皆さんと

歌いたい」と結ばれていた。それに賛同し、作業後、手始めに「365日紙飛行機」「花は咲く」などの歌の練習を木陰で開始した。

すると、白いめがねと白いエプロンを身につけた飛び入り参加者が現れた。美しいボーイソプラノで「チョリリル、チュリリル、チョリチュリペリ」とオブリガードを始めたのだ。私たちは「歌声に誘われてやってきたのかな…」と冗談交じりに笑った。

まさかとは思ったが、私たちが低い声で話すとどこかへ去り、高い声で歌い始めると再び近づいてきて歌い、それをくり返すのである。その子は、次の週もやって来た。「名前はなあに？」と尋ねても「チュリリル」と答えるばかり。

後日、その子はメジロであることが判明した。メジロの鳴き声は、2.5KHz~3.5KHzといわれている。比較的警戒心がゆるく、慣れた人だと口笛で呼び寄せることもできるらしい。社会的な性質や音声コミュニケーションの発達によるものとされている。

鳥も虫も花も草木も人も仲間…それが「人と自然の会」なのだと納得した。

1月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

1/9 初出式&10年継続会員植樹式

1/18 新春交流会

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

編集委員：青木(幸)・尾崎・清原(加)

柴田・千載・田中・戸田

表紙写真：間伐した松の木を利用してベースキャンプの横にテーブルと腰掛けを作っています。